

初期分げつの発生を良くするため、植付深さは3 cm程度とし、活着後の浅水管理を徹底しましょう。

農作業コツのコツ

【第3号】
令和 7年 4月19日
福光農業改良協議会
砺波農林振興センター南砺班
福光農業協同組合 営農部

4月の気温は、高くなることが予想されていますので、**ハウス内の換気を徹底**し、硬い健全な苗に仕上げましょう。また、**丁寧な代掻きで田面の均平**に努めるとともに、適切な田植えと浅水管理で初期分げつを確保しましょう。

水稻・移植

1 育苗後半の管理

- ・硬化期のハウス内温度は、**昼間 25℃以下**、**夜間 10℃以上**を目安に管理を徹底しましょう。
- ・田植えの7日前頃からは夜間も**換気**し、硬い苗に仕上げましょう。
- ・**かん水**は早朝1回を原則とし、箱の底まで浸透するよう、むらなくかけましょう。また、フェーン現象等で乾いた場合は日中もかん水しましょう。

＜表 搬出後の温度管理の目安＞			
作業		緑化期	硬化期
ハウス内の温度管理	昼間	2 8℃以下	2 5℃以下
	夜間	1 0℃以上	

かん水が多すぎる(特に低温時は注意!)と根の伸びが悪くなるとともに、カビが発生しやすくなります。

2 田植え

(1) 代かき作業

- 除草効果を高めるため、
- ①代かきから田植えまでの日数は3～5日とし、長くならないようにしましょう。
 - ②少なめの水で代かきを行い、稲ワラや雑草を鋤き込み、**田面を均平**に仕上げましょう。

(2) 基肥量

- ・倒伏が懸念されるほ場は、**基準量から1割程度減ら**しましょう。
 - ・密苗栽培は、**施肥基準量を厳守**しましょう。
 - ・前年、出穂前に色ざめたほ場では、基準量を確実に施用しましょう。
- ※品種毎の基肥量は『営農とくらし』52～53 ページを参照してください。

作業前や田植中、田植機の施肥ホツパやホース、排出口に詰まりがないか 確認しましょう。

(3) 田植作業

- ・**ブーンレバード箱粒剤**の散布(播種時に施用していない場合)

散布量	慣行苗 50g/箱	密苗 50～100g/箱 (1 kg/10a)
散布時期	田植え当日までに均一に散布	

密苗の10a 当たり散布量は1kgを超えない。
例) 苗箱数 12 枚/10a
→ 施薬量 80g/箱
13 枚/10a→76g/箱

- 【注意】ハウス内で野菜等の作付けを予定している場合は、ハウス内での散布は禁止。
- ・田植前には必ず田植機の調整(植付株数、本数、深さ)を行うとともに、田植え開始時に植え付け状況を確認しましょう。
 - ・低温や強風の日は田植えを避けましょう。
 - ・**出芽ムラが大きい苗**を田植えする場合は、**かき取り量を多くし**、欠株を防止しましょう。但し、かき取り量を増やした場合、使用苗箱数が多くなるので、10a 当たり株数をやや減らすなどして不足苗箱数を調節してください。

【田植作業の目安】

	とみちから 五百万石	てんたかく81 コシヒカリ	てんこもり
植付株数	80 株/坪	70 株/坪 (コシヒカリ: 中山間地域など初期茎数のとれにくいほ場は 80 株/坪)	60 株/坪
植付本数	慣行苗 3～4 本/株 密苗 5～6 本/株		
植付深さ	3 cm 程度		



育苗ハウスの換気を徹底し、がっちり苗に仕上げましょう。

春の農作業安全運動実施中。安全フレームとシートベルトはセットで使用しましょう！

3 田植後の水管理

- ・田植後の植え傷みを防ぐため、苗が水没しない程度の深水(5cm 程度)としましょう。なお、密苗については、田植後は浮苗による欠株防止のため、**浅水管理**としましょう。
- ・活着後は**3 cm 程度の浅水管理を徹底**し、田水温を高め、初期分げつの発生を促しましょう。
- ・低温や強風が予想される場合は深水とし、**天候回復後はすみやかに浅水管理**にしましょう。

水稻・直播

1 湛水直播の播種床の準備

- ・代かき時の水は少なめとし、練りすぎないようにしましょう(特にほ場の枕地)。
- ・代かきから播種までの日数は黒ボク土で2～3日、粘質土で4～5日としましょう。
- ・播種時に田面が軟らかすぎる場合は、落水状態をしばらく継続し、田面が硬すぎる場合は入水し、適正な土壌硬度の確保に努めましょう。

カルパー(土中散布)



田面 0～-1cm

播種深さの目標は土中5～10mmに播種する。

鉄コーティング(表面播種)



田面 0cm 以上

種子が田面に張り付き、施肥溝が埋まらない程度の硬さとする。

写真 播種時の土壌硬度の目安(高さ1mからゴルフボールを落とした場合)

2 カルパーコーティング

(1) 播種

- 確実に**覆土**(5～10mm の播種深度を確保)されていることや、種子や肥料の落下量を確認しながら播種しましょう。

覆土されていない種子が多い場合は、播種直後に**1 日入水してから落水**し、種もみを落ち着かせましょう。



(2) 播種後の水管理

- ・播種後**5～7 日程度は田干し**を行い、種子に酸素を提供しましょう。また、強風が吹くなど荒天の場合には、乾きすぎにも注意しましょう。
 - ・田干しが終了したら入水し、水持ちを安定させましょう。
 - ・水持ちが安定したら、湛水状態で除草剤を散布しましょう。
- ※詳しくは『営農とくらし』の 76～77 ページを参照してください。



足を踏み入れ、**2～3cm 程度しか沈まなかった頃**が入水時期です。

3 鉄コーティング

(1) 播種

- 代かき後自然落水し、土壌がある程度締まった状態で播種しましょう。

【播種量の目安】

播種量(乾籾)	3.0～3.5 kg/10a
1 m間苗立本数	1 2～2 5 本

播種時の土壌の硬さは、種子
が田面に張り付き、施肥溝が
埋まらない程度



(2) 播種後の水管理

- ・播種同時または播種直後に必ず除草剤を散布し、除草剤の効果を高めるため、**播種後 7 日間程度は深水**(水深5cm 程度)による**湛水管理**を行いましょう。
 - ・湛水管理後は水を落とし、田面が湿った状態を保つ**飽水管理**を行い、**出芽を促進**させましょう。
- ※詳しくは『営農とくらし』の 78～79、82～83 ページを参照してください。

ほ場周辺の危険箇所を確認し、余裕をもった作業で事故防止に努めましょう！